

救援物資を積んだ希望丸がサハリン・ホルムスク港に

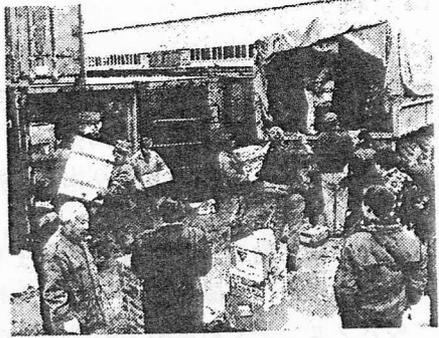
1 入港



日本ーサハリン

「希望丸」全行動報告

ロシア・サハリン北部地震(五月二十八日)から二カ月、阪神大震災の被災者をはじめ日本からの救援物資がサハリンの被災者にとのようが届いたが、NGO(非政府組織)の国際提携で達成した市民救援船「希望丸」の全行動を報告する。
(神戸支局・岩崎日出雄、写真部・岸根立孝)



2 連携

救援物資を仕分ける日露のNGOメンバーがノグリキで

ナの中身を検査。コンテナ自体が物資リストに含まれておらず、多額の関税を要求される。

【6月24日】朝、コンテナ13個分の支援物資を積んだ「希望丸」が川崎港を出港。

【25日・26日】三陸沖や津軽海峡などを通過。

【27日】夕方、ホルムスク港到着(写真)▽税関の書類審査に2時間▽国際的NGO「ADRA(アドラ)国際援助機構」ロシア支部員と合流。

【28日】税関がコンテナの中身を検査。コンテナ自体が物資リストに含まれておらず、多額の関税を要求される。

【29日】コンテナをサハリン州に寄付することで関税を回避。

【30日・7月1日】貨物列車でホルムスクを出発。700*先のノグリキを目指す。

【2日】ノグリキ寄。集荷場で荷降ろし。

【3日】オハからトラック5台到着。NGO関係者らが物資を仕分けながら荷積み(写真)▽午後4時(日本時間午後1時)に全物資の約30%を載せて出発▽森林を以て木舗装の道路狭く(写真)▽同7時半、1台からコンテナ落下。通りがかりのクレイン車の助けで2時間後、荷台に因す(写真)

3 悪路



物資を積みトラックは砂ぼこりをあげるノグリキ北50キロ

4 アクションテント



【5道がない】地震のつめ跡にう回を強い

6 「希望」をもって



サハリンの被災者ついに救援物資が届くノフチエゴルスクで

【4日・7日】475人に物資を配布(写真)。

「へ持ちかえって」と手引きの感謝状を託した。ノグリキとオハでも5日から被災者に物資を配った。

元NGO救援出航協議会、アジア医師連絡協議会と毎日新聞社が協力し、日本内航海運組合総連合会の支援で実現した。